

○參照第四

別紙名古屋及仙臺兩市ニ於ケル磁力計室ニ關スル報告書提出候也

明治廿七年三月 委員 中村 精 男

全 理學博士 田中館愛橘

震災豫防調査會長理學博士菊池大麓殿

名古屋及仙臺兩市ニ於ケル磁力計室ニ關スル報告

磁力計室設計ノ要點ハ室内ノ磁力計ニ外般ノ障得ヲ去リ正確ニ地磁氣ノ變化ヲ示サシメントスルニアルヲ以テ磁力ノ感應ヲ受クヘキ材料ヲ用ヒス又室内ノ温度ヲシテ常ニ一定ノ度ヲ保タシム可キ構造ヲナスニ在リ而シテ單ニ温度ノ不變ヲノミ謀ルトキハ磁力計室ハ地中室ト爲スヲ以テ最適當ナリトス然レモ地中室ヲ造クルニ煉化石等ノ如キ材料ハ鐵氣ヲ含有スルヲ以テ用フルコト能ハス加之本邦ニ於テハ地中室内ノ空氣甚タ濕潤ナルノ憂ヒアルヲ以テ之ヲ遮遏スルノ準備ヲ要シ到底巨額ノ費用ヲ投スルニ非サレハ完全ノ地中室ヲ築造スル能ハス因テ名古屋及仙臺ノ磁力計室ハ地上ニ設クルコト爲シタリ兩市ノ磁力計室ハ木造ニシテ釘類ハ總テ銅製トシ毫モ鐵材ヲ用ヒス而シテ室内温度ノ激變ヲ防ク爲メ之ヲ三重ニ作レリ磁

力計本室即チ中央室ハ長サ五間幅三間ニシテ四壁并ニ天井ハ悉皆亞鉛板ヲ以テ作り且中央ニ亞鉛板ノ壁ヲ設ケ本室ヲ甲乙ノ二部ニ別チ甲ニハ直接觀測ノ磁力計ヲ設置シ乙ニハ地球磁力諸素ノ變化ヲ寫眞スヘキ器械ヲ設置シタリ本室ノ四圍幅三尺ノ距離ニ木板ノ壁又本室ノ天井ヲ距ルコト三尺ノ高サニ於テ木板製ノ天井ヲ設ケタリ之ヲ第二覆室トス第二覆室ノ周圍ヨリ三尺ノ所ニ更ニ木板ノ壁ヲ設ケ之ニ板葺ノ屋根ヲ造リ以テ外家ト爲ス(圖參照)

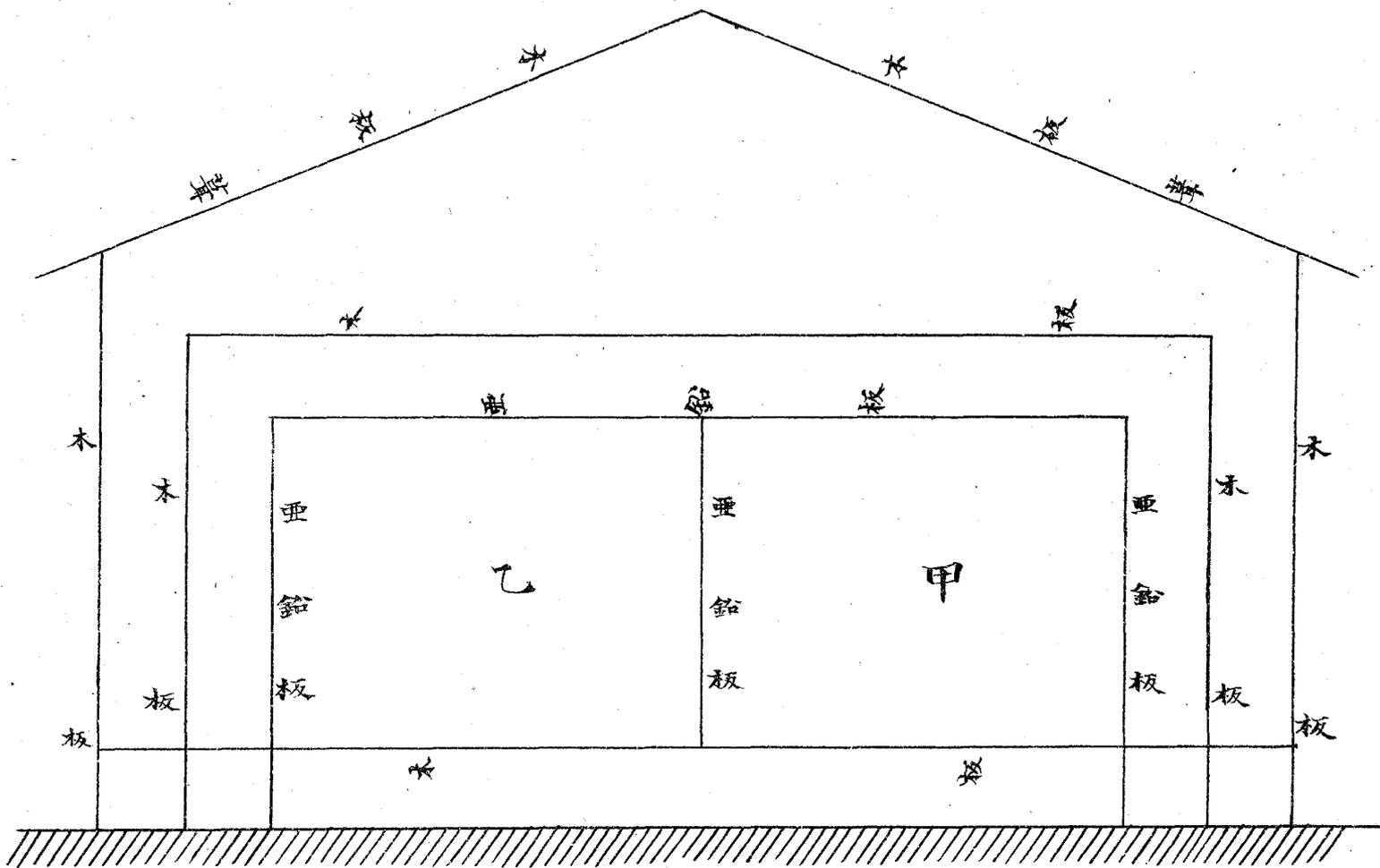
磁力計室ハ名古屋仙臺共昨年八月中落成セリ而シテ名古屋ニ於テハ八月中磁力計ノ据付ヲ了シ仙臺ニ於テハ九月中之ヲ据付ケタリ磁力計ハ單線吊雙線吊及天秤形ノ三種ニシテ而シテ單線吊ハ方位角ノ變化、雙線吊ハ地球磁力ノ水平分力ノ變化、天秤形ハ地球磁力垂直分力ノ變化ヲ示スモノナリ以上三種ノ器械ハマスカール氏ノ考案ニ基キ巴里カルバンチエー社ノ製造ニ係ルモノナリ

名古屋及仙臺ニ於ケル磁力計室内温度ノ變化ヲ調査スレハ左ノ表ニ示スカ如シ

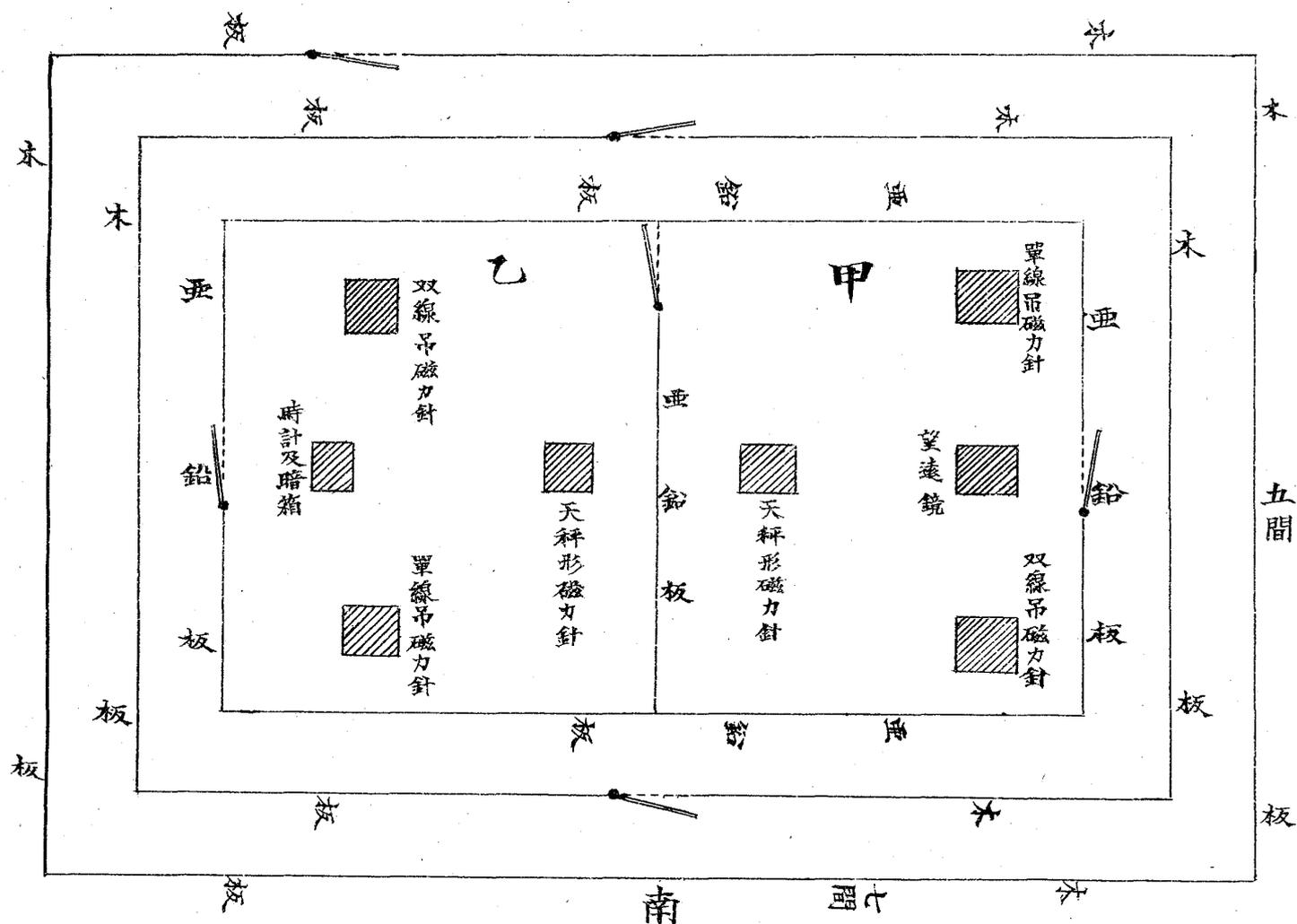
名 古 屋	最低ノ平均	最高ノ平均	差	仙 臺	最低ノ平均	最高ノ平均	差
	二五、七度	二五、〇度	一、三度				

廿六年九月

# 磁計室圖



北



五間

七間

南

全	十月	一七、六	一八九	一、三	—	—	—	—
全	十一月	一〇、二	一一、五	一、三	六、五	七、九	—	—
全	十二月	五、二	六、六	一、四	二、七	三、六	〇、九	—
廿七年一月		三、二	四、六	一、五	〇、二	一、一	〇、九	—
全	二月	二、八	五、〇	二、二	〇、三	二、三	二、二	—
全	三月	七、四	九、三	一、九	三、七	五、一	—	一、四

此表ニ由テ觀レハ磁力計室内夏冬温度ノ差ハ二十度以上ニ上リ而シテ一日中最高最低ノ差ハ約一度乃至二度ノ間ニ在リ乃チ室内温度ノ變化甚タ緩慢ナラス然レモ中央氣象臺ノ地中室ニ於テモ尙ホ一ケ年中二十七八度ノ變化アルヲ免レストイヘハ名、仙兩所ノ地上室内温度ノ變化ハ先ツ満足スヘキモノト云フヘシ

### ○參照第五

地震ト地球磁力ノ變動トノ關係ニ付開陳

震災豫防調査會ニ於テハ曩ニ開陳セシ調査事業概略ノ方針ニ基キ各其調査ニ着手シタルコトハ既ニ震災豫防調査會報告第一號ニ詳記セシカ爾後諸準備稍整頓シ諸般ノ調査著々歩ヲ進ムルニ至リシヲ以テ遠カラス其成績ヲ本會報告第二號ニ掲ケ

以テ閱覽ニ供セント欲ス然ルニ別紙磁力調査主任委員田中館愛橋中村精男大森房吉ノ提出セシ磁力變動ニ關スル報告ハ特ニ注意ヲ要スヘキモノト思考セルヲ以テ本會ノ報告ニ掲載スルニ先ダチ茲ニ之ヲ進達ス

地磁氣不斷觀測ハ本會ノ目的ヲ達スルニ有効ナルヘシトスルノ理由ハ調査事業概略第八項ニ述ヘタル所ノ如シ而シテ此觀測器械ハ先年内務省氣象臺ニ据付タルモノ及昨年本會ニ於テ名古屋及仙臺ノ兩所ニ据付タルモノニシテ一組三個ヨリ成レリ即チ一ハ地球磁力ノ方位ヲ示シ一ハ其水平分力ヲ示シ一ハ垂直分力ヲ示ス三個各時々刻々ニ變化ヲ顯ハスニ由リ此變化ヲ寫眞的ニ自記セシムルカ爲メノ裝置ナリ此變化ハ平常ハ一定ノ法則ニ從ヒ一定ノ周期間ニ循環ス此法則及周期ハ各所ニ於テ異ナルモノナルヲ以テ之ヲ確定スルコトハ此觀測事業ノ一部分ナリ又右ノ外時々不規則ノ變動アリ名ケテ磁氣嵐ト稱ス但其原因詳ナラス抑地震ハ此法則及周期ニ影響ヲ及ホシ又不規則ノ變動ヲ生スヘシトハ本會ノ豫期セル所ニシテ從テ地震豫知法ノ一端トモナルヘシトハ本會ノ希望スル所ナリ故ニ去一月十日ノ強震ニ際シテ特ニ之カ調査ヲ爲シタリシニ果シテ別紙報告書ニ記セルカ如キ奇異ノ顯象ヲ發見セリ本會ニ於テハ尙ホ進テ大ニ之ヲ研究シ以テ更ニ報告スル所アラントス